

文部科学省科学技術人材育成費補助事業
ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）

2023年度 事業報告書



Diversity & Inclusion

“いのちのつながり” に貢献する医療、研究のために



日本医科大学
NIPPON MEDICAL SCHOOL



日本獣医生命科学大学
NIPPON VETERINARY AND LIFE SCIENCE UNIVERSITY



アンファア

文部科学省科学技術人材育成費補助事業
ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)
2023年度 事業報告書

目次	1
連携機関ご挨拶	3
代表機関	
日本医科大学 学長 弦間 昭彦	
共同実施機関	
日本獣医生命科学大学 学長 鈴木 浩悦	
アンファー株式会社 代表取締役 吉田 南音	
1章 事業概要	4
1 目標・行動計画および取り組みの概要	5
2 実施体制	6
3 各機関の数値目標	7
4 2023年度事業計画	7
2章 活動報告	9
1 ダイバーシティ研究環境整備のための取り組み	10
1-1 研究支援員配置制度	10
1-2 女性研究者を代表とする共同研究への研究費の補助	12
1-3 病児・病後児および休日勤務時等の保育支援制度	14
1-4 時間短縮勤務制度利用者のキャリア継続支援	14
1-5 女性・若手研究者キャリアデザインプロジェクト	15
1-6 ダイバーシティ推進講演会	17
1-7 シンポジウム キャリアアップとワークライフバランス	18
2 女性研究者の研究力向上とリーダー育成のための取り組み	19
2-1 産学横断型キャリア相談窓口	19
2-2 産学横断型メンター制度	19
2-3 留学支援	20
2-4 英文校閲費用助成制度	21
2-5 外部資金獲得に向けた支援	21
2-6 プレゼンテーション力向上セミナー	23

3	女性研究者の上位職への積極的登用に向けた取り組み	24
3-1	教育担当の講師および准教授 任用制度の活用	24
3-2	学長による取り組み	24
3-3	英語プレゼンテーション講座	25
4	情報発信と広報	26
4-1	One Healthウェブサイト	26
4-2	ニュースレターの発行	26
3章	資料	27
1	One Health 実行委員会規程・委員名簿・開催日と議題	28
2	2023年度 事業取組実施表	31

ご挨拶

形成されつつある強い基盤を 多様性に富んだ人材のさらなる活躍に活かす

代表機関 総括責任者

学校法人日本医科大学 日本医科大学 学長

弦間 昭彦

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)5年目の今年度、本学の入学における女性の割合は初めて5割を超えました。本事業では、卒業後社会で活躍する医師・研究者として成長していただく環境づくりを使命の一つと考え、多様性に富んだ人材の研究環境づくり、教員選考制度の見直しや職位の新設を行い、女性医師・研究者が活躍出来る大学としての整備を行なってきました。女性上位職の増加から、これまでの取り組みが実を結びつつあること、そしてポジティブアクション等の取り組みの重みを実感しています。

2023年度は、若手研究者育成に効果のある支援とするため研究支援員配置制度の対象を助教・ポストドクターに変更し、多様な研究者が議論する場を提供するため、第4回女性若手研究者キャリアデザインプロジェクトでは早稲田大学からの参加を迎えるなど、培った取り組みを成熟させる企画が実現出来た年となりました。さらに、同事業「女性リーダー育成型」との相互作用により、組織内でのダイバーシティ研究環境実現への意識醸成は一層促進しました。

次年度は本事業の最終年度となります。連携機関と協力して充実した成果をあげるべく若手研究者育成に力点を置いた戦略などを加えた活動をして参ります。皆様におかれましては引き続き、ご指導・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



支援で女性を育て、ロールモデルを人材確保に繋げる

共同実施機関 総括責任者

学校法人日本医科大学 日本獣医生命科学大学 学長

鈴木 浩悦

5年目を迎えるダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)は、研究支援員の配置や共同研究の支援などの様々な取組を通じて、本学において女性教員の研究力を向上させています。さらに、新たに開始した「育成型」と連動し、女性教員比率と女性管理職比率の上昇へと実を結び始めています。今後、この取組が関係各所に周知されることで、優秀な女性研究者の獲得に繋がることを期待しています。2023年度の教員採用数は助教2名、教授1名と少数でしたが、大学戦略会議や教員選考委員会を通じて具体的な数値目標の達成を目指すことで、女性教員採用比率は100%となり、女性教員比率は約25%に達しています。

また、2023年度は社会で活躍している本学卒業の女性研究者を招致し、女子学生向けのシンポジウムを開催しました。登壇した卒業生からは、研究の楽しさや仕事と生活の両立など、様々な話題が提供され、聴講した女子学生と活発な質疑が行われました。農学や獣医学分野では研究者を目指す女子学生が少なく、それを好転させるためには、ロールモデルが必要です。シンポジウムに参加した女子学生にとっては、具体的に進路を考える上での良い機会となりました。また、教員にとっても、社会における女性の卒業生の活躍を知る良い機会となり、大きな励みとなりました。今年度も引き続き、様々な取組を進めながら、女性教員の採用を積極的に進めていく方針です。



産学連携でのキャリア形成のイノベーションを目指して

共同実施機関 総括責任者


アンファー株式会社 代表取締役

吉田 南音

アンファー株式会社は『自分をより「美しく」「健やかに」することを通じ、人生をより「愉しく」したい人を増やすこと』という企業理念の更なる実現のため、提携クリニックや大学病院、研究者の方々との強固な連携を持ち、社会的意義を出しながら事業拡大を進めております。さまざまなライフステージにいる患者さま・お客さま一人ひとりが自身の目指す状態に近づけるサポートとして医学をもとにしたサービス・プロダクトを提供しております。当社は半数以上が20代、30代という若い社員の構成ということもあり、ジェンダー平等の視点をくわえた、社員の能力を十分発揮できる環境の実現に向け「教育」「支援」「整備」を3つの重点課題とし組織の有り様の変革を進めております。女性、男性、役職問わず育児休業取得や在宅勤務、時短勤務などフレキシブルに働ける環境づくりもその一環であり、仕事と家庭の両立の実現を目指しております。

このプロジェクトを通じ産学連携することにより、新たな視点での人材育成の考えを取り入れるとともに、当社の取り組みが大学での働き方やキャリア形成の一助になれることを期待しております。





1章 事業概要

1章 事業概要

1 目標・行動計画および取り組みの概要

代表機関	学校法人日本医科大学 日本医科大学
総括責任者名	学長 弦間 昭彦
共同実施機関名	学校法人日本医科大学 日本獣医生命科学大学、アンファー株式会社
実施予定期間	2019年度～2024年度

目標・行動計画の設定

【目標】

1. 女性研究者の研究力の向上・産学連携の促進
2. 女性研究者の上位職への登用促進
3. 社会全体としてのダイバーシティ環境の実現

生命科学領域における基礎研究を推進し、癌や生活習慣病をはじめとした加齢関連疾患の病因・病態の解明に貢献する。また、産学間で連携して、臨床応用を視野に入れたトランスレーショナルリサーチを推進し、新規治療・予防戦略を確立し、未来型医療を先導する。以て、女性研究者の研究力を伸ばし、上位職への登用を促進する。並行して、ひろく地域社会に「いのちのつながり」を学ぶ機会を提供することにより、地域との連携を強化し、ダイバーシティ意識を根付かせ、次世代の研究者を育成することを目標とする。

【行動計画】

1. 「いのちのつながり」を柱とした共同研究の推進と女性・若手研究者キャリア支援

女性・若手研究者の細やかな視点で「いのち」を捉え、病因・病態の解明や疾病の予防、健康寿命の延伸を主眼においた基礎研究や、産学連携研究を推進する。科学技術研究費補助金(科研費)を含む、外部資金の獲得を1.2倍に増加させ、独立した研究環境を構築できるよう支援する。

2. 上位職への登用促進に向けたキャリアアップ

本事業を通じ、学位を取得した若手研究者は7年以内に准教授・講師の職につき、更に実績を重ね学内外の教授職を目指すことを支援する。2019年度は、女性教授は約6.6%であったが、2024年度には13.2%を目標とする。准教授・講師についても2019年度10.4%から2024年度12.5%以上にすることを目標とする。

3. 地域との連携によるダイバーシティ研究環境の実現

「いのちのつながり」をテーマとした出張授業など、地域に向けたアウトリーチ活動を10回/年以上実施し、多様なヒト(成人、子ども、高齢者)や動物の共生が可能なダイバーシティ環境を構築する。活動を通じ、ダイバーシティに対する人々の関心を高め、適正なワーク・ライフ・バランスの実現や、研究者をとりまく家庭や職場のしあわせキャリアの向上と、「ダイバーシティ研究環境」の実現に繋げる。

4. グローバル人材の育成

海外からの研究者・留学生の人数を2019年度・13人から2024年度までに1.5倍以上に増加させる。外国人研究者を交えた定期的な勉強会を開催し、グローバル人材を育成する。

取り組みの概要

1. 「いのちのつながり」を柱とした研究の推進と女性・若手研究者キャリア支援

女性・若手研究者の視点で生命現象を捉え、病因・病態の解明や疾病予防、健康寿命の延伸を主眼においた研究を推進する。産学連携を支援し、研究成果の早期実用化を促す。リーダーシップ養成セミナーを共催し、学協会における理事・会長への就任、政府諮問機関等への参画を目指す人材を育成するとともに、上位職への登用を行う。

2. 「いのちのつながり」講座によるワーク・ライフ・バランス意識改革

種の多様性は生態系の安定に必須である。生命科学研究に取り組む女性・若手研究者が、一般社会に向けたアウトリーチ活動を通じて「いのちのつながり」がダイバーシティの具現化に必須であることを解説し、ワーク・ライフ・バランスの意識を高める。これらの取組を通じ、多様なヒトと動物、環境の多様な生命との共生を目指す、一歩進んだダイバーシティ環境の実現を目指す。

2 実施体制

日本医科大学と日本獣医生命科学大学、アンファー株式会社による「One Health 実行委員会」を設置し、地域との連携強化、次世代研究者育成の加速を目指し、産学連携のダイバーシティ研究環境整備と女性上位職登用に向けて取り組みを実施する。「One Health 実行委員会」は、各連携機関の実施責任者を含む6名の委員と、学長、研究部長等によって構成される。「One Health実行委員会」は、学校法人日本医科大学 しあわせキャリア支援センターと各共同実施機関とのネットワークを密にし、多様な人材のキャリア形成や現場のニーズに即した支援体制を構築する。

代表機関および共同実施機関内においては、各機関内に設置されているダイバーシティ推進委員会、研究推進課、および学校法人日本医科大学の知的財産推進センター、ICT推進センター、国際交流センターなどとの連携のもとに事業を推進する。



3 各機関の数値目標

本事業による女性・若手研究者の育成、ならびにダイバーシティ研究環境の構築に向けた支援の成果として、2024年度には各機関における女性研究者の在職比率を以下の通りとすることを目標とする。

事業目標	女性研究者採用比率	女性研究者在職比率	教授(管理職)比率
日本医科大学 (代表機関)	2019年度 35%	2019年度 26%	2019年度 7%
	2024年度 35%	2024年度 30%	2024年度 13%
日本獣医生命科学大学 (共同実施機関)	2019年度 50%	2019年度 21%	2019年度 15%
	2024年度 50%	2024年度 27%	2024年度 20%
アンファー株式会社 (共同実施機関)	2019年度 50%	2019年度 59%	2019年度 33%
	2024年度 67%	2024年度 60%	2024年度 40%

4 2023年度事業計画

【事業の目的】

日本医科大学

生命科学領域における基礎研究を推進し、癌や生活習慣病をはじめとした加齢関連疾患の病因・病態の解明に貢献する。また、産学間で連携して、臨床応用を視野に入れたトランスレーショナルリサーチを推進し、新規治療・予防戦略を確立し、未来型医療を先導する。医学部教授の選考基準の見直しや教育担当講師の配置などの取り組みを継続し、女性研究者の高い離職率の原因分析準備を行い、女性研究者の研究力を伸ばし、上位職への登用を促進する。並行して、ひろく地域社会に「いのちのつながり」を学ぶ機会を提供することにより、地域との連携を強化し、ダイバーシティ意識を根付かせ、次世代の研究者を育成することを目的とする。

日本獣医生命科学大学

本学へ入学する学生の6割以上が女子であるが、本学に在籍する女性教員数は日本の農学系の数値を若干上回る程度であるため、研究力のある女性教員そのものの数を増加させることが重要である。女性教員の研究環境が整備されることで、女子学生もキャリアデザインを広げ、良好なキャリアパスをイメージでき、大学院への進学率向上につながる好循環が誕生する可能性がある。そこで本学では中長期計画に男女共同参画推進を掲げ、全学的なダイバーシティ研究環境の実現に向けて力を入れているが、さらに本事業を通じてOne Health実行委員会を共同で運営し、次世代の研究者を育成し、ダイバーシティ環境の一層の促進を図ることを目的とする。

アンファー株式会社

日本医科大学と日本獣医生命科学大学との共同研究を推進し、女性研究者が活躍できる環境を築くための課題解決に向けた事例や、具体的な方策と手段を共有するために、One Health実行委員会の下、セミナーを開催する等して連携を強化し、次世代を牽引する女性研究者の育成に貢献する。

【実施内容】

代表機関である日本医科大学と、共同実施機関である日本獣医生命科学大学とアンファー株式会社と協働して取り組む。

1 ダイバーシティ研究環境整備のための取り組み

1) 保育支援制度の整備	医・獣
2) 時間短縮勤務制度利用者のキャリア継続支援	医
3) 研究支援員配置制度の実施	医・獣
4) 女性研究者を代表とする共同研究費補助	医・獣・ア
5) 女性・若手研究者キャリアデザインプロジェクトの実施	医・獣・ア
6) ダイバーシティ意識醸成のためのセミナー等の開催	医・獣・ア
8) 地域との連携強化・次世代研究者育成	獣
9) 他機関との協力体制の構築	医・獣・ア
10) 女子学生向けキャリアパス支援の取り組み	獣
11) 情報発信	医・獣・ア


2 女性研究者の研究力向上のための取り組みとそれに通じたリーダー育成のための取り組み

1) 産学横断型キャリア相談室/メンター制度	医・獣・ア
2) 研究力向上に向けた留学支援の促進	医・獣
3) 外部研究費獲得に向けた支援	医・獣
4) 女性研究者の研究力強化に向けた支援	医・獣・ア
5) リーダーシップ養成セミナー等の開催	獣

3 女性研究者の上位職への積極的登用に向けた取り組み

1) 講師(教育担当)および准教授(教育担当)の登用	医
2) 学長による学内重要会議でのプレゼンテーション	獣
3) 学長と分野責任者による戦略会議	医
4) 女性女医職候補者のコンサルティング機会の企画	医
5) グローバル人材の育成	獣

医…日本医科大学 獣…日本獣医生命科学大学 ア…アンファー株式会社



2章 活動報告

2章 活動報告

1: ダイバーシティ研究環境整備のための取り組み

1-1: 研究支援員配置制度

日本医科大学、日本獣医生命科学大学では妊娠・出産、育児、介護などのライフイベントにある女性研究者の研究活動の維持と促進を図るため、2019年度から研究支援員配置制度を導入した。1週間当たり最大20時間の支援を受けることができる。研究者は研究支援員から実験補助、データ解析など研究に必要な業務の支援を受けることができる。

【対象者】

日本医科大学、日本獣医生命科学大学に所属する常勤の女性研究者(助教、ポストドクター)で、以下①～④のいずれかに該当する方

- ① 妊娠：母子手帳取得後、産休前まで
 - ② 育児：小学校6年生までの子を養育している方
 - ③ 介護：要支援または要介護の認定を受けている家族の介護をしている方
 - ④ その他、上記理由に準ずるライフイベントにより、十分な研究活動が出来ないと認められる方
- ※ライフイベントのある男性研究者も対象としている

【研究支援員の勤務時間等】

週に最大 20 時間まで。研究支援員の雇用は大学で行い、経費も全額負担する。

【2023年度 支援実績】

日本医科大学	3名
日本獣医生命科学大学	2名

【研究成果発表会】

2022年度(一部2021年度)の本制度および共同研究の研究費補助の支援を受けた研究者による研究成果発表会を次の通り開催した。

日本医科大学	2023年9月21日(木) 15:00～17:35	オンライン
	発表者 9名(研究支援員配置制度 5名、共同研究 4名)	
日本獣医生命科学大学	2023年10月4日(水) 10:20～14:45	B315教室
	発表者 6名(研究支援員配置制度 3名、共同研究 3名)	

2023年度に支援を受けた研究者の意見

日本医科大学

● ライフイベントでは毎日お弁当作りが必要となり、また当直業務が発生したため、前年度よりも多忙となったが、研究支援員と密に連携を取り毎日少しずつup dateすることで、多数の学会発表と論文執筆をすることが可能となった。また、研究手技としてリアルタイム PCR も獲得できたため、より研究内容が重厚になったと思われる。

これらの業績を蓄積し、リーダー的存在に成長し、日本医大を筆頭に社会を牽引すること。また、臨床のためになる研究を行い、多くの患者を救うことを可能としたい。

マウス、試薬の管理、臨床データの入力等、1人ではできないことばかりなので、大変助かった。実際、臨床を抜けてマウス室への出入りは難しいので、研究支援員がいない状態では、マウスなどを扱う動物実験は難しいと思われる。また、研究を遂行する中で、相談する人がいる状況も研究内容が発展する可能性があり、その意味でも有り難く、更なる精進を目指していく所存である。

● 日々外来・病棟業務に追われる中においても 研究を少しずつ前進できたことは、研究支援員また本制度をサポートくださっている皆様のお力添えあつてのことと大変感謝しております。

他方、病院業務と併行して支援員の方と打合せを行う時間の確保には難渋し、改善を要する事項であったと考えております。

本制度がなければ研究を進めることは難しく、ご支援いただいた研究結果について引き続き前進させ、学会および論文発表をめざして参ります。

なお、病棟業務がある中で研究に充てる時間(文献検索・解析・打合せ)や他の研究者との研究スペースの共用については依然難しいと感じる場面が多く課題であると感じた次第です。

日本獣医生命科学大学

● 支援員配置により、研究のみならず、間接的に研究者であるパートナー(共働き)の負担も減らすことができ、ワークライフバランス充実を図れたと感じた。

今後ますますこうした取り組みが広がっていくことを期待している。

● 例年、実習・授業・学生面談や研究室活動等、業務が非常に多く、自身の研究時間の確保が困難だった。一方で業績が求められるポストのため、精神的負担も大きかった。支援員配置により負担は一部解消できた。また、学生が支援員の近くで実験操作を行う際、学生を気にかけてサポートする場面もあり、学生指導の負担も軽減した。さらに、毎年同じ支援員を配置できたことで信頼関係が構築され、意見交換し合いながら研究を遂行できるようになったことも大きな成果だった。

1-2：女性研究者を代表とする共同研究への研究費の補助

日本医科大学、日本獣医生命科学大学に所属する女性研究者が代表となる医学・生命科学領域の共同研究を公募し補助する制度で、共同研究にかかる研究費として1件につき100万円を補助する。

【申請資格者】

申請者(研究代表者)は、日本医科大学、日本獣医生命科学大学に所属する女性教員・研究者(助教以上)

【研究組織】

連携機関(日本医科大学・日本獣医生命科学大学・アンファー株式会社)のうち

2機関以上の共同研究者による共同研究

人数の制限はない

【補助金額】

1件100万円(研究代表者の他、代表者と同じ機関に所属する共同研究者のみ使用可)

【2023年度 支援実績】

日本医科大学 2件

日本獣医生命科学大学 3件

日本医科大学の共同研究

2023年度採択 2件		研究代表者氏名	職名	所属	研究題目	共同研究者
神田 奈緒子	教授	千葉北総病院・皮膚科	可溶性食物繊維イヌリンが乾癬を抑制する機構の解明	日本医科大学 5名 日本獣医生命科学大学 1名		
藤原 めぐみ	助教	形態解析研究室	ダウン症の若年性アルツハイマー病に対する神経細胞内ATP増強効果を検証する	日本医科大学2名 日本獣医生命科学大学 1名		

日本獣医生命科学大学の共同研究

2023年度採択 3件		研究代表者氏名	職名	所属	研究題目	共同研究者
小竹 佐知子	教授	応用生命科学部 食品科学科 食品工学教室	高齢者喫食行動の特徴と食品フレーバーリリースへの影響 一味成分を中心に	日本獣医生命科学大学 4名 日本医科大学2名		
藤原 亜紀	准教授	獣医学部 獣医学科 獣医放射線学研究室	猫の鼻腔疾患における鼻腔細菌叢の評価および犬の鼻腔疾患との比較検討	日本獣医生命科学大学 4名 日本医科大学 1名		
町田 雪乃	講師	獣医学部 獣医学科 獣医病理学研究室	イヌの肝細胞癌のオルガノイドバンクの構築および新規治療法の開発	日本獣医生命科学大学 2名 日本医科大学 1名		

1-3：病児・病後児および休日勤務時等の保育支援制度

日本医科大学、日本獣医生命科学大学に所属する研究者に対し、研究活動と育児との両立を支援するため、業務上やむを得ない理由により、夜間・早朝保育、休日保育、病児・病後児保育を利用する際に、その利用料金の一部を補助する。

【支援対象者】

研究に従事する専任教員およびポストドクターで、小学校6年生までの子を養育している者

※男性研究者にあつては、配偶者が大学、大学共同利用機関、独立行政法人又は企業等で雇用されている研究に従事する者である場合に限る

【支援対象となる保育等】

研究者が業務上やむを得ない理由により、夜間・早朝保育、休日保育、病児・病後児保育が必要となり、保育施設又はベビーシッター会社および市区町村で行っているファミリー・サポート・センターのサービスを利用した場合に、本制度による支援対象とする。

【補助額】

支援対象となる保育等の利用に係る利用料金（登録料、交通費、キャンセル料等は除く）とし、子1人あたり上限額（年度）2万円までとする。

【2023年度利用実績】

日本医科大学	2名
日本獣医生命科学大学	0名

1-4：時間短縮勤務制度利用者のキャリア継続支援

日本医科大学における短時間勤務女性医師の任用制度※利用者への支援を実施している。この制度を利用する育児中の女性医師が、通常の就業形態への復帰など、自分の描くキャリア形成実現を支援する。

※女性医師の出産、育児からの復職を支援し、将来のキャリア形成及びその維持に寄与することを目的とした制度

【2023年度実績】

面談の実施 新規 6名

1-5：女性・若手研究者キャリアデザインプロジェクト

本プロジェクトで女性・若手研究者が集い、共同研究について学び、ディスカッションすることで、異なる所属・分野の間で新たな人脈が生まれ、実際の共同研究への種となります。多くの女性・若手研究者が参加し、今後のキャリア形成の一助となることを目的とする。

【対象者】

日本医科大学、日本獣医生命科学大学、アンファー株式会社、早稲田大学、東京理科大学に所属する女性研究者、男性研究者※、ポストドクター、大学院生

※男性研究者は40歳未満がのぞましいが限定はしない

【概要】

第4回女性・若手研究者キャリアデザインプロジェクト ～共同研究に関するワークショップ～

日時 2023年11月29日(水) 16:00～19:00

会場 日本医科大学 教育棟講堂(東京都文京区千駄木1丁目1-5)

内容 1.基調講演 講師 細谷 紀子氏

東京大学大学院医学系研究科 疾患生命工学センター 放射線分子医学部門 准教授

2.グループワーク テーマ：共同研究

3.発表と質疑・講評

4.懇親会

【グループワークの方法】

- 1) 募集時に参加者ご自身の専門分野やスキルなどを知らせる。
- 2) 事務局で各4名程度のグループを作る。
- 3) グループごとに構成メンバーでの仮想の共同研究テーマを決め、ワークショップまでにおおまかな構想を考える。
- 4) ワークショップ当日は、メンバーが実際に顔を合わせて発表に向けてのまとめ作業のあと、共同研究プランを発表する。

【スケジュール】

参加募集期間	2023年9月11日(月)～9月29日(金)
選考結果とグループ通知	2023年10月10日(火)
共同研究テーマの検討期間	2023年10月10日(火)～10月27日(金)
共同研究テーマ通知	2023年10月31日(火)
ワークショップ準備期間	2023年10月31日(火)～11月28日(火)
ワークショップ	2023年11月29日(水)16:00～19:00

【参加者】

22名

男性 4名 女性 18名

日本医科大学 13名 日本獣医生命科学大学 4名 アンファー株式会社 3名、早稲田大学2名
准教授1名、講師7名、助教5名、ポスドク3名 大学院生3名 他3名

ワークショップ

【日時】 2023年11月29日(水) 16:00～19:00

【会場】 日本医科大学 教育棟講義室

【参加者】 メンバー 22名

【プログラム】

挨拶 弦間 昭彦 日本医科大学 学長
鈴木 浩悦 日本獣医生命科学大学 学長

基調講演 細谷 紀子 氏

「医学におけるライフワークを追い求めて
～サステナブルな研究の発展のために～」

東京大学大学院医学系研究科附属疾患生命工学センター 准教授

グループワーク

成果発表

グループ1 「共役リノール酸を高めた牛肉の生産およびその摂取によるヒト肥満の改善」

グループ2 「急性ストレス負荷が加齢関連イベントに及ぼす影響の解析 ―クローン性造血をターゲットとした予防医学を目指して―」

グループ3 「組織スライス培養モデルを用いた免疫チェックポイント阻害薬の新たな効果予測因子/有害事象関連因子の同定」

グループ4 「不妊・不育症の原因となる 自己免疫応答における マクロファージ動態のPETイメージングによる可視化」

グループ5 「ヒトと犬における認知症と性ホルモンに関するトランスレーショナルリサーチ」

講評 植木 美希 日本獣医生命科学大学 教授

懇親会

本プロジェクトの詳細報告および発表会の動画はウェブサイトに掲載している

URL <https://one-health.jp/report/4100/>

プロジェクト参加メンバーの意見

細谷先生の講演から

●二人のお子様を育てながら、信念をもって仕事を続けてこられた姿に共感を覚えると共に、私自身も頑張ろうと強く思いました。

●生涯取り組む研究テーマを基に、ライフバランスを組み立てて、選択していくという点がとても感銘を受けました。

●自分の興味・関心のあることを追求することが、研究者として研究活動を続けていくうえで如何に大切なことか、よく解りました。

ワークショップに参加して

●異なる分野の先生方と自由な発想でディスカッションする事ができ、研究の本質的な楽しみを改めて実感することができました。

●異分野の先生とのコラボが大変な部分もありましたが、事前ミーティングを重ねるうちに意見を出し合い、良い解決策が見つかりました。

●分野の違う方々と交流でき、共同研究のきっかけになるような場を経験できたことが非常に有意義でした。

●着眼点が各グループ異なっており、実現可能であればとても興味深いプロジェクトになりそうだと感じた。

●コンパクトな会でしたので、両大学の学長と直接お話する機会に恵まれ、大変有意義でした。直接お目に掛かって各先生方とお話出来たので、人となりがよく判り、楽しい時間を過ごせました。

文部科学省科学技術人材育成補助事業ダイナシティ・研究環境実現イニシアティブ(産別型)

2023年
11月29日【水】
16:00～19:00

日本医科大学
教育棟2階講義室
文京区千駄木1-1-5

女性・若手研究者キャリアデザインプロジェクトは、産科婦人科(白根大、自研大、アソファ)に所属する女性・若手研究者、大学院も、博士号取得後、今後のキャリア設計の視座を共有し、研究するプロジェクトです。第4回は、この2期に加え、新卒から大学院まで、キャリア設計の視座を共有し、キャリア設計について学び、ディスカッションします。

第4回 女性・若手研究者 キャリアデザインプロジェクト 共同研究に関するワークショップ

プログラム

16:00 挨拶 弦間 昭彦 日本医科大学 学長
鈴木 浩悦 日本獣医生命科学大学 学長

16:10 基調講演 細谷 紀子 氏
「医学におけるライフワークを追い求めて
～サステナブルな研究の発展のために～」

16:40 グループワーク

17:40 成果発表(発表4分・質疑3分、議評2分)

18:25 懇親会

19:00 挨拶

講師紹介: 細谷 紀子 氏
1973年東京大学理学部理学系理学科卒業、理学博士。1995年東京大学大学院理学系研究科理学系理学専攻(理学)入学、1997年理学系理学専攻(理学)修士課程修了。博士(理学)取得後、1998年、理学系理学専攻(理学)研究員、東京大学理学部理学系理学専攻(理学)を経て、2006年より東京大学大学院理学系研究科理学系理学専攻(理学)助教授、2007年助教授、2012年准教授、2018年特任准教授、2019年准教授、2020年准教授に昇格。自身の研究テーマとして、DNA損傷に対する免疫応答の制御メカニズムの解明、ヒトと犬の認知症、免疫細胞の分子生物学的解析の解析に取り組んでいる。

共同研究のテーマ
1. 共役リノール酸を高めた牛肉の生産およびその摂取によるヒト肥満の改善
2. 急性ストレス負荷が加齢関連イベントに及ぼす影響の解析 ―クローン性造血をターゲットとした予防医学を目指して―
3. 腫瘍における腫瘍マクロファージ (TAM: Tumor-Associated Macrophage) の3次元解析およびその意義・治療標的の解明
4. 不妊・不育症の原因となる自己免疫応答におけるマクロファージ動態のPETイメージングによる可視化
5. ヒトと犬における認知症と性ホルモンに関するトランスレーショナルリサーチ

主催 日本医科大学/日本獣医生命科学大学/アソファ・産別型
後援会 産科婦人科研究会/産科婦人科研究会/産科婦人科研究会

1-6：ダイバーシティ推進講演会

2023年6月27日ダイバーシティ推進講演会を開催した。日本医科大学をご卒業後、第一線で活躍を続けている滝田先生の歩まれているキャリア、お仕事へのビジョンなどをお話しいただいた。

- 【日時】 2023年6月27日(火) 16:30-18:30
- 【会場】 日本医科大学橘桜ホール
- 【対象】 日本医科大学、日本獣医生命科学大学、
アンファー株式会社に所属する教職員・学生・大学院生
- 【出席】 48名
- 【内容】
 - 挨拶 弦間 昭彦 日本医科大学 学長
 - 講演 「新しい扉をこじ開けた先に~Physician Scientistの薦め~」
滝田 順子氏 京都大学大学院医学研究科 発達小児科学 教授
 - 質疑応答司会 大橋 隆治 しあわせキャリア支援センター 委員

参加者からの感想・意見

- これまでのキャリアで女性であることはむしろ小児科医としてもプラスに働き、マイナスと感じた経験はなかった、というお言葉は女性の学生さん達にも伝えたいと思います。
- 留学しなくても、母校でなくても、素晴らしいキャリアと実績を形成しておられることに感動しました。先生の能力と努力、周りを動かし支援を得るお人柄、本当に素晴らしいと思います。
- すごい経歴をお持ちなのに、苦労話のようなお話ではなく、患者さんの治療につながれば、という純粋な思いで研究をされてきたら結果として今のポジションにつながった、というお話で、とても尊敬の念を抱きました。逆に敢えて苦労話もお聞きしてみたかったです。
- 医局の一人ひとりの立場になって考える、失敗しても何も失わないという演者の方の言葉に共感しました。そういった考えの指導者に会えたら幸いですし、そのようになりたいと思いました。
- 自分でどういった研究者としてキャリアを歩むのか、リーダーとなればいいのか考える上で(現在悩んでいる点なので)、とても良い刺激となった。

1-7：シンポジウム キャリアアップとワークライフバランス

研究職志望女子学生を増加させることを目的とした女子学生向けキャリアパスセミナーとして、次世代研究者育成の一面と併せ、社会で活躍する本学卒業生4名を、学内に講師として迎え、「キャリアアップとワークライフバランス～すべては日獣大からはじまった 私にとってのワークライフバランスとは～」を開催した。学生時代の進路選びから卒業後の歩み、スキルやキャリアの積み上げ方、現職での業務、そして、その中でのパートナーや子の親・自分自身の人生との両立について語られ、参加した学生・大学院生から、積極的に質問が飛び等、裾野拡大に大いに手ごたえがある講演となった。またロールモデルになる4名を目の当たりにしたことで、研究者としての人生の歩み方を、より具体的に感じられるセミナーとなった。

【テーマ】 シンポジウム「キャリアアップとワークライフバランス

～すべては日獣大からはじまった わたしにとってのワークライフバランスとは～

【主催】 日本獣医生命科学大学 ダイバーシティ推進委員会

【日時】 2024年2月21日(水) 13:30-15:30

【会場】 日本獣医生命科学大学 E111講義室

【対象】 日本獣医生命科学大学に所属する教職員、学生、大学院生

【参加者】 43名

【内容】

木原 友子氏 「研究・ライフバランス」

日本獣医生命科学大学 シェルターメディスン社会連携講座 助教

塩川 舞氏 「私と研究とライフワークバランス」

日本獣医生命科学大学 シェルターメディスン社会連携講座 助教

藤原 摩耶氏 「野生動物保全の夢と幸せの実現に向けて」

京都大学 野生動物研究センター 特定准教授

家田 真由氏 「自分らしく働き続けるために」

味の素 冷凍食品株式会社 マーケティングDX推進部 マネージャー

参加者の意見

- 多角的かつ多くのことを学べる研修だった。今後の学生指導にも活かしたい。
- 色々な学科を卒業された方のお話を聞くことができたのが良かった。普段、自分が在籍している学科に関する話題しか聞く機会がないので、他学科の先輩方のキャリアやご活躍についても学べて良かった。
- 学科に偏らない素晴らしいロールモデルの先生方のお話しが聞けて、とても良い研修だった。このような研修が継続して行くと良いと思う。また、自分の研究者人生と照らして、初心に戻った。
- 多くの学生・大学院生・本学の入学を目指す受験生にも聴講してもらいたい内容と感じた。今後の進路やキャリアパスを描きながら人生を進めてゆく手掛かりになる素晴らしい講演だった。

文部科学省 科学技術人材育成戦略推進事業ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）

シンポジウム キャリアアップとワークライフバランス

～すべては日獣大からはじまった 私にとってのワークライフバランスとは～

本学卒業生が「研究職として生きていくには」「キャリアアップをどうしていく」「ワークライフバランスを両立するには」をテーマに、話し合いながらキャリアアップしてきたか振り返ります。研究職を目指した経験や、その歩みについて、現在の仕事、ワークライフバランスを保つために心がけることや周囲に期待することなどを話します。

2024 2/21 Wed 13:30-15:30
日本獣医生命科学大学 E111 講義室

対象：日本獣医生命科学大学に所属する教職員、学生、大学院生

申込不要
直接ご来場
下さい

木原 友子氏
日本獣医生命科学大学 シェルターメディスン社会連携講座 助教
「研究・ライフバランス」

塩川 舞氏
日本獣医生命科学大学 シェルターメディスン社会連携講座 助教
「私と研究とワークライフバランス」

藤原 摩耶氏
京都大学 野生動物研究センター 特定准教授
「野生動物保全の夢と幸せの実現に向けて」

家田 真由氏
味の素 冷凍食品株式会社 マーケティングDX推進部 マネージャー
「自分らしく働き続けるために」

主催：日本獣医生命科学大学 ダイバーシティ推進委員会
問い合わせ：ダイバーシティ推進部
0422-31-4151 ext.107 | diversity@nvh.ac.jp | https://one.health.jp

2: 女性研究者の研究力向上とリーダー育成のための取り組み

2-1：産学横断型キャリア相談窓口

日本医科大学、日本獣医生命科学大学、アンファー株式会社では、研究者のワーク・ライフ・バランスと研究に関する悩みや問題を相談し、一人ひとりの状況やニーズに応じたキャリア設計が可能となるように産学横断型キャリア相談窓口を運営。

- 【名称】 みんなで支えるしあわせキャリア相談窓口
- 【対象】 日本医科大学、日本獣医生命科学大学、アンファー株式会社に所属する研究者
- 【相談対応】 しあわせキャリア支援センター担当者、メンター、学内外の連携機関
- 【相談方法】 対面、電話、オンライン、メール
- 【相談内容】 研究、キャリア、仕事と家庭（結婚、出産、育児、介護等）の両立、留学など
- 【相談時間】 1回あたり50分とする。回数の制限は設けない

【2022年度利用実績】 1件（対面1）

2-2：産学横断型メンター制度

日本医科大学、日本獣医生命科学大学、アンファー株式会社では経験を積んだ先輩研究者が、若手研究者を側面から支援することによって育成を図り、女性研究者のキャリア継続、研究力の向上、上位職への登用に資することを目的としたメンター制度を実施。2023年度の登録メンターは26名。

また、メンター制度が気軽に利用されることを目指し、メンターインタビューのメール配信とウェブサイト掲載を実施している。2023年度は2名のメンターにインタビューを実施した。

- 【名称】 つなぎ、支え、前進する ~One Health メンター制度~
- 【メンティ】 日本医科大学、日本獣医生命科学大学、アンファー株式会社に所属する研究者
- 【メンター】 日本医科大学、日本獣医生命科学大学、アンファー株式会社に所属する研究者
- 【方法】 対面、電話、オンライン、メール
- 【内容】 研究、キャリア形成、進路、仕事上行き詰まった時の対応、家庭（育児・介護など）と仕事の両立、部下・学生の指導・育成
- 【期間】 3か月未満とする
- 【時間・回数】 時間：30分～1時間以内 回数：1か月に1回以上3回以内 業務時間内に実施

【2023年度利用実績】 0件

2-3：留学支援

2019年度に実施した日本医科大学と日本獣医生命科学大学教員を対象したアンケート結果では、留学未経験者の女性研究者にとって留学を妨げる要因として、留学中の育児への不安が多く挙げられた。この結果を踏まえ、本事業では女性研究者の研究力向上の一環として留学の支援を行っている。2023年度は以下の取り組みを実施した。

1. 留学アドバイザー制度の運営

日本医科大学の留学経験のある研究者がアドバイザーとして、留学に関わる疑問や悩みについて経験に基づいてアドバイスをする制度。アドバイザーには日本医科大学に所属する8名を登録。2022年度の制度利用者1名がアドバイスを活用し、2024年度の留学実現に至った。

【2023年度利用実績】 0名

2. 留学に関わる講演会の開催

学校法人日本医科大学国際交流センターと共催し、「日本から世界へ～ 米国で臨床医として働く 自分自身で切り拓くキャリアの魅力」を開催した。日本医科大学を卒業後に米国で臨床医として働く3名が、それまでに歩んだ道のりや米国で医師として勤務する実状や働き方を講演した。

【主催】 学校法人日本医科大学 国際交流センター
学校法人日本医科大学 しあわせキャリア支援センター

【日時】 2023年5月17日(水) 18:00～20:30

【会場】 日本医科大学 教育棟講堂+オンライン+アーカイブ配信

【対象】 海外での活動、渡米に興味のある学生・研修医・大学院生・教職員

【講師】 宮下 智氏 タフツ大学 循環器内科臨床フェロー
里井 セラ氏 マウントサイナイ医科大学関連病院 内科レジデント
古田 穂氏 ヴァンダービルト大学病院 小児科レジデント

【司会】 根岸 靖幸 日本医科大学 微生物・免疫学教室 准教授

3. 留学先に関わる情報提供

アンケート調査および各種情報源を使い、以下の情報提供を本事業のウェブサイトで継続している。

- ① 海外研究留学情報
- ② 提供者別の海外留学に関わる奨学金情報
- ③ 地域別の育児保育環境を含めた生活情報



国際交流講演会

講演者 宮下 智氏、里井 セラ氏、北嶋 俊寛氏、宮地 麻衣氏

主催：学校法人日本医科大学国際交流センター&しあわせキャリア支援センター

【演題】 日本から世界へ～
米国で臨床医として働く
自分自身で切り拓くキャリアの魅力

日時 令和5年 5/17 水
18:00-20:30
場所 日本医科大学教育棟2F講堂
&オンライン開催

対象 海外での活動、渡米に興味のある学生・研修医・大学院生・教職員

申込 こちらのQRコードからご登録ください。
締切り：5月14日(日)
お問い合わせ：国際交流センター
kakusa@kai.ac.jpまでご連絡ください。

宮下 智
タフツ大学病院
循環器内科臨床フェロー

里井 セラ
マウントサイナイ医科大学関連病院
内科レジデント

北嶋 俊寛
ヴァンダービルト大学病院
循環器内科臨床フェロー

宮地 麻衣
聖マリアンナ医科大学病院
小児科

2-4：英文校閲費用助成制度

日本医科大学と日本獣医生命科学大学は、女性研究者の研究力向上とキャリアアップを推進することを目的として、学術雑誌への投稿論文の英文校閲にかかる費用を助成している。

【応募資格】

日本医科大学、日本獣医生命科学大学に所属する女性研究者（常勤教員（特任含む）及びポストドク研究員）

【対象】

1 学術雑誌の投稿論文

助成の対象とする「学術雑誌」の基準について原則として、以下の基準に合致することが求められます。審査の際に雑誌に関する資料の提出をお願いすることがあります。

- i. 査読が行われる英文の学術雑誌である
(学会要旨は対象外)
- ii. 投稿規定や編集委員の情報などが英文で公開されている
- iii. 論文、もしくは論文要旨を、Web等を通じて世界の研究者が閲覧できる
- iv. 原著論文、総説、症例報告いずれも可

2 著者および論文の完成度

- ・自身が主たる著者（筆頭または責任著者）として発表する著作物である
- ・申請時点で英語論文の執筆が既に終了しているもの

【2023年度支援実績】

日本医科大学 10名
日本獣医生命科学大学 1名

文部科学省科学技術人材育成費補助事業
「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」

2023年度
英文校閲費用助成制度
上限 **10万円** 利用希望者
募集中!!

本制度は、女性研究者の研究力向上とキャリアアップを推進することを目的として、学術雑誌への投稿論文の英文校閲費用を助成する制度です。2023年度における本制度利用希望者を以下のとおり募集いたします。

応募資格	日本医科大学に所属する 女性研究者 (常勤教員(特任含む)及びポストドク研究員) ※原則として、日本学術振興会の科学研究員に応募する研究者番号を持つ研究者
対象	2023年4月1日～2024年2月末までに 英文校閲を行い納品が完了するもの ※字数の都合により、途中で募集を打ち切ることがあります。

お申込み・詳細はこちらから
<https://one-health.jp/support/1517/>

【お問合せ】
学校法人日本医科大学 しあわせキャリア支援センター 事務室
TEL: 03-3822-2131 (内線5501)
E-mail: app-shien@nms.ac.jp

2-5：外部資金獲得に向けた支援

1. 動画講座と研究計画書添削の支援

日本医科大学は、意欲ある優れた研究能力を有する研究者に対し、研究力強化の支援を目的に、学内委員会と連携を図り、外部専門機関による科学研究費助成事業（科研費）獲得に向けた動画講座と研究計画書添削の支援を実施した。

【対象】 前年度の科研費の申請結果で不採択の評価が「A判定」であった、
日本医科大学に所属する女性研究代表者

【2023年度支援実績】 7名

2. 研究費獲得に向けたセミナーの開催

これまで実施してきた研究費獲得支援の取組から、申請経験のない研究者に向けたセミナー等を希望する声が多く上がっている。今回は主に令和7年度の科研費申請を目指す申請初心者や経験の浅い研究者を対象に、科研費申請の基本とコツを学ぶことで研究費獲得の一助になることを目的とする。

【テーマ】 科研費獲得を目指した申請書の書き方のポイント～初めて応募する申請者のために～

【主催】 日本医科大学、日本獣医生命科学大学、アンファー株式会社

【日時】 2023年11月16日(木) 17:00-19:00

【開催】 日本医科大学教育棟講堂+オンライン+オンデマンド

【対象】 日本医科大学、日本獣医生命科学大学、アンファー株式会社の教職員、学生、大学院生

【講師】 日本医科大学、日本獣医生命科学大学、アンファー株式会社の教職員

【参加者】 66名

【講師】 児島 将康氏 久留米大学 分子生命科学研究所 遺伝情報研究部門 教授

【内容】

第1部 (会場+オンライン)

講演 「科研費獲得を目指した申請書の書き方のポイント ～科研費に初めて応募する研究者のために～」

質疑応答

第2部 (会場)

科研費申請書の公開添削

質疑応答

司会 眞野あすか しあわせキャリア支援センター 委員

The poster features a red and orange color scheme. At the top left is a graduation cap icon. The main title is '科研費獲得を目指した申請書の書き方のポイント' (Points for Writing Research Grant Applications) in white text on a dark red background. Below it, it says '初めて応募する研究者のために' (For researchers applying for the first time). The date '2023 11/16 Thu 17:00' is prominently displayed in a red circle. The speaker's name '児島 将康 先生' (Mr. Masayasu Kojima) is listed, along with his affiliation: '久留米大学 分子生命科学研究所 遺伝情報研究部門 教授' (Professor, Department of Genetic Information Research, Institute of Molecular Life Science, Kyushu University). The program is divided into two parts: Part 1 (17:00-18:30) includes a lecture and Q&A, and Part 2 (18:30-19:00) includes Q&A and public review of applications. An information section lists the venue (Kyushu University Education Building Lecture Hall) and online options (Webex). A QR code is provided for registration. At the bottom, contact information for the organizing institutions is listed.

参加者からの意見

- 安易なマニュアルではなく、自分に足りないものを客観的な立場から指摘していただけたところが非常に参考になった。
- 評価者として、指導者として申請書の添削をされるお立場として、非常に実践的な内容で参考になりました。また事前質問にも丁寧に回答くださった内容も参考になりました。
- 具体的な文章の修正の仕方を提示してくださったこと。少し変えるだけで全然見え方が変わると感じた。
- 「目的」「独自性」「創造性」「問い」などの項目を分かりやすいように分けて書くという点がとても参考になった。

2-6：プレゼンテーション力向上セミナー

研究者としてのキャリア形成のためには、国際・国内の学会や研究会において効果的に研究成果を発表する必要がある。多くの研究者がプレゼンテーションスキルの必要性を実感している。2023年度は、2022年度に実施したプレゼンテーションに関わるセミナーのうち「英語論文の書き方(基礎編)」をさらに深めた「英語論文の書き方(実践編)」を開催した。繰り返し視聴できるオンデマンド配信を行い、プレゼンテーションスキルの向上を目指した。

【テーマ】 日英語論文の書き方 実践編 (全3回)

【主催】 日本医科大学、日本獣医生命科学大学、アンファー株式会社

【対象】 連携機関と全国ダイバーシティネットワーク東京ブロック参画機関に所属する教職員・学生

【開催】 オンライン(Webex)

【日時】 2023年12月5日(火)、12日(火)、19日(火) 17:00-18:00

【参加者】 3回 合計119名

【講師】 小野 義正氏 元理化学研究所創発物性化学研究センター

【司会】 遠田 悦子 しあわせキャリア支援センター 委員

第1回 英語らしい英語の書き方	参加者 60名
第2回 日本人英文を脱するために	参加者 54名
第3回 日本人英文の間違いと論文の改訂・推敲	参加者 55名

参加者の意見

- 実例を示しながら、日本語特有の表現と英語表現における違いを分かりやすく、まとめて頂いたので、科学論文用の文章作成方法についての理解が進みました。
- 一文の中の語順、時制の選択の重要性、語句の選択、英文ライティングを学ぶ態度、方法、アイデアなど、講演のどの部分も非常に示唆に富んで役立つものでした。
- 短文で適切な動詞を活用することを意識したい。
- これは良い、悪い、を例を挙げて説明していただき、知識の整理・確認に役立ちました。
- あいまいな表現を使いがちであることを自分でもわかってはいましたが、具体的にどのように修文するべきなのか悩んでいました。今回、先生より具体的に言い換えの例文をお示しいただき、大変納得しました。

- 「英文校正は魔法ではない」、という言葉が刺さりました。英文校正に丸投げではだめだということがよく分かりました。

- 英語をより良く直してもらうためには、論理や構成をしっかり吟味して、それなりのレベルの論文を書く必要があるということがよく分かった。

YZ!?ABCDEFGHIJKLMSTUNOPVWXYZQR
 文部科学省科学技術人材育成費補助事業
 ダイバーシティ推進事業(オンラインタイプ) (事例紹介)

英語論文の書き方講座 実践編 全3回

2023年12月
5,12,19日(火)
17:00-18:00
オンライン開催

講師：小野 義正 先生
元・理化学研究所創発物性化学研究センター

12/5 英語らしい英語の書き方
12/12 日本人英文を脱するために
12/19 日本人英文の間違いと論文の改訂・推敲

昨年行った「英語論文の書き方セミナー(基礎編)」に続いて、世界の研究者に比べても劣る英語力の高いために役立つ下記の項目を講義します。
 様々な分野の研究者の英語論文執筆に役立てていただけたらと思います。
 第1講義：英語らしい英語の書き方を講義します。良い科学英語論文を書くには、論文が持つべき論理と論文構成 (IMRAD) に従って論文を書く必要があります。日本語の論理と英語の論理は異なるので、その違いを理解して英語論文を書き替えてもらう必要があります。このためには、論文英語のスタイルと英語表現のレベルに合った書くことが必要です。
 第2講義：日本人英語を脱するための方法として、日本語的英文→英語的英文への変換、英語論文の高レベルの書き方、英語論文で避けるべきポイントを講義します。
 第3講義：日本人に多い、英語の間違いを修正する、英語論文改訂のチェックポイント、英語論文の推敲の仕方について講義します。

INFORMATION

対象：日医大、日獣大、アンファー(株)、全国ダイバーシティネットワーク東京ブロック参画機関に所属する教職員、学生
 申込：各回とも開催日前日(日)までこちらから ▶

小野 義正 先生
 1977年東京大学大学院理学系研究科博士課程修了後、イリノイ州、カーズ・ウェムスタウン・リゾープ大学で博士(工学)取得。1980年日医大理学部理学部に入局し、副学部長等を歴任。業績論文・書籍発表の多岐にわたる。その後、日医大理学部基礎研究、研究開発部長、東京大学大学院工学系研究科にて、科学・技術教育を担った。2014-2022年まで、理化学研究所創発物性化学研究センターにて、研究及び英語論文指導に携わった。
 『ポイントで学ぶ科学英語論文の書き方(改訂版)』(ポイントで学ぶ英語論文の書き方)、『ポイントで学ぶ英語論文の書き方(実践編)』(ポイントで学ぶ英語論文の書き方)の著者・編集者。
 『英語論文の書き方-基礎編』の動画(学内限定の配信)

FUNISTHUVWXYZITAGBEFONHJKLNMOPQRTADVWXYZEF

主催：日本医科大学、日本獣医生命科学大学、アンファー株式会社
 問合せ：しあわせキャリア支援センター ☎03-3822-2131 (代) ext.5504、5502
 申込み：app-shien@vms.ac.jp ●https://one-health.jp/

3: 女性研究者の上位職への積極的登用に向けた取り組み

3-1：教育担当の講師および准教授任用制度の活用

日本医科大学における女性の上位職への積極登用に向けた取り組みとして、講師（教育担当）及び准教授（教育担当）の任用制度を活用し、教育に優れた資質や経験を有している女性に指導層として活躍してもらい、優れた女性上位職を増員する。この制度で積極的に女性活躍を推進する。

2023年度 登用者数 講師（教育担当） 4名、准教授（教育担当） 5名

3-2：学長による取り組み

日本医科大学では、女性研究者の上位職への積極登用に向け、学長による次の取り組みを実施した。

- 1 学内重要会議でのプレゼンテーション
教授会などの会議において多様な人材の協働（女性教授数の問題解決、女性上位職登用比率の是正等）に関する啓発を実施した。
- 2 学長と分野責任者による戦略会議
女性上位職候補者在籍の分野責任者との上位職登用に向けた戦略の打ち合わせを実施した。
- 3 女性上位職候補者のコンサルティング機会の企画
女性上位職候補者に対し、個別にコンサルティングを実施した。

4: 情報発信と広報

4-1 : One Health ウェブサイト

日本医科大学、日本獣医生命科学大学、アンファー株式会社では文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型・女性リーダー育成型)」の取り組みについて周知を図る、ウェブサイトOne Healthを運営している。公募情報、連携機関代表者の挨拶、事業内容、活動報告、ロールモデル、支援制度、イベント情報、アーカイブ配信など随時更新をしている。



4-2 : ニュースレターの発行

日本医科大学、日本獣医生命科学大学、アンファー株式会社では、文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型・女性リーダー育成型)」の取り組みについて周知を図るため、ニュースレターを発行している。2023年度は8号、9号を発行した。




【8号】
2023年7月15日発行

内容
女性リーダー育成型事業の紹介と
キックオフシンポジウム報告
コラム_ペットのいるワーク・
ライフ・バランス
活動報告

【9号】
2024年1月15日発行

内容
グローバル人材育成の支援
活動報告
コラム_ペットのいるワーク・
ライフ・バランス
女性リーダー育成型採択





3 章 資料

3章 資料

1 One Health 実行委員会

One Health 実行委員会規程

(目的)

第1条 この規程は、学校法人日本医科大学(以下「本法人」という。)が設置する日本医科大学及び日本獣医生命科学大学の女性・若手研究者のライフイベント及びワーク・ライフ・バランスに配慮した研究環境の整備、活躍の促進並びに就労及び研究の機会の確保等を図るため、本法人が主導的、牽引的に企業と共同して行うダイバーシティ事業を実施するため、本法人内に設置する委員会について必要な事項を定めることを目的とする。

(定義)

第2条 この規程において、次の各号に掲げる用語の意義は、それぞれ当該各号に定めるところによる。

(1) ダイバーシティ事業

2019年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ」をいう。当該事業は、2019年度に開始し、2024年度に終了する。

(2) 代表機関

ダイバーシティ事業に共同申請した機関のうち代表機関をいい、日本医科大学がこれに当たる。

(3) 共同実施機関

ダイバーシティ事業に共同申請した機関のうち代表機関と共に実施する機関をいい、日本獣医生命科学大学及びアンファー株式会社がこれに当たる。

(委員会の設置)

第3条 本法人に、ダイバーシティ事業を実施するためOne Health実行委員会(以下「委員会」という。)を置く。

2 日本医科大学及び日本獣医生命科学大学に、それぞれダイバーシティ推進委員会を置く。

3 前項のダイバーシティ推進委員会については、別に定める。

(委員会の構成)

第4条 委員会は、次に掲げる者をもって構成する。

(1) 日本医科大学 学長

(2) 日本獣医生命科学大学 学長

(3) 日本医科大学 研究部長

(4) 日本獣医生命科学大学 研究部長

(5) しあわせキャリア支援センター センター長

(6) 共同実施機関の実施責任者 各1名

(7) しあわせキャリア支援センター長が推薦する者 若干名

2 前項の各委員は、理事長が任命する。

(委員の任期)

第5条 前条第1項第7号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、委員が任期中に欠けた場合の後任委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第6条 委員会に委員長を置き、第4条第1項第1号の委員とする。

2 委員長は、委員会を招集し、議長となる。

(副委員長)

第7条 委員会に副委員長を置く。

2 副委員長は、委員のうちから委員長が指名する。

3 副委員長は、委員長を補佐するとともに、委員長が委員会に出席できない場合にその職務を代行する。

(委員会の開催)

第8条 委員会は、必要に応じ、随時開催する。

2 委員会は、委員総数の過半数の出席を要する。ただし、委員が別に定める委任状を提出した場合には、当該委員は出席とみなす。

(審議事項)

第9条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 女性・若手研究者の研究の推進に関すること。
- (2) 女性・若手研究者のキャリア支援に関すること。
- (3) 女性・若手研究者による地域との連携強化に関すること。
- (4) 女性研究者の上位職率の向上、離職率の低減に関すること。
- (5) 次世代を牽引する女性・若手研究者の育成に関すること。
- (6) 女性研究者の積極採用に関すること。
- (7) その他委員会が必要と認めたこと。

(議決)

第10条 委員会の議事は、出席委員の過半数でこれを決し、可否同数のときは委員長の決するところによる。

2 前項の出席委員には、委任状提出委員は含まないものとする。

(事務局)

第11条 委員会に関する事務は、しあわせキャリア支援センター事務室、法人本部総務部総務課、日本医科大学事務局学事部庶務課及び日本獣医生命科学大学事務局事務部庶務課が担当する。

(改廃)

第12条 この規程の改廃は、理事長を経て理事会の議決を必要とする。

附則

この規程は、令和元年10月1日から施行する。

One Health 実行委員会 2023年度委員名簿

第1号	日本医科大学	学長	弦間 昭彦
第2号	日本獣医生命科学大学	学長	鈴木 浩悦
第3号	日本医科大学	研究部長	近藤 幸尋
第4号	日本獣医生命科学大学	研究部長	近江 俊徳
第5号	しあわせキャリア支援センター	センター長	土佐 眞美子
第6号	日本獣医生命科学大学	教授	植木 美希
	アンファー株式会社	本部長	長田 康孝
第7号	日本医科大学	大学院教授	大石 由美子(2023年6月まで)
	日本医科大学	教授	神田 奈緒子(2023年7月から)
	日本医科大学	教授	船坂 陽子
	日本獣医生命科学大学	教授	小竹 佐知子

One Health 実行委員会 2023年度開催日と議題

2023年度 第1回

日時 2024年1月29日

議題 1 日本医科大学および日本獣医生命科学大学における2023年度共同研究及び研究支援員配置制度
利用者の採択についてについて

2 2023年度 事業取組実施表

実施日	主な実施内容	実施機関
4月1日	2023年度研究支援員配置制度 開始	医・獣
	2023年度共同研究の補助 開始	医・獣・ア
	2023年度病児・病後児及び休日勤務時等の保育支援制度 開始	医・獣
	2023年度英文校閲費用助成制度 開始	医・獣
5月17日	国際交流講演会 開催	医・獣
6月27日	ダイバーシティ推進講演会 開催	医・獣・ア
6月2日	2023年度科研費申請書に関わる添削支援 開始	医
7月15日	Newsletter Vol.8 発行	医・獣・ア
9月1日	英語プレゼンテーション講座 開始	獣
9月21日	日本医科大学女性研究者による研究成果発表会 開催	医・獣・ア
10月4日	日本獣医生命科学大学女性研究者による研究成果発表会 開催	医・獣・ア
11月16日	研究費獲得に向けたセミナー 開催	医・獣・ア
11月29日	女性・若手研究者キャリアデザインプロジェクト研究 開催	医・獣・ア
12月5日	プレゼンテーション力向上セミナー 英語論文の書き方実践編 開催 (12/12,19)	医・獣・ア
1月15日	Newsletter Vol.9 発行	医・獣・ア
1月29日	第1回 One Health 実行委員会 開催	医・獣・ア
2月21日	シンポジウム キャリアアップとワークライフバランス 開催	獣

医…日本医科大学

獣…日本獣医生命科学大学

ア…アンファー株式会社

文部科学省科学技術人材育成費補助事業
ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)

【代表機関】 日本医科大学 【共同実施機関】 日本獣医生命科学大学 アンファー株式会社

【編集・発行】 学校法人日本医科大学 しあわせキャリア支援センター

〒113-8602 東京都文京区千駄木1-1-5 TEL 03-3822-2131

<https://one-health.jp/>

